

LMcorsa

60● **H.YOSHIMOTO**● **R.MIYATA**

SUPER GT 2019 Race Report Rd.4 Chang GT

7月30日 | 天候：晴 | コース：チャン・インターナショナル・サーキット | 路面：ドライ

Final Day Summary

12番手から上位フィニッシュを目指した LMcorsaだったが、第2ステイントの走行中にタイヤトラブルが発生し、緊急ピットインを強いられ15位で完走

Final Day

鈴鹿サーキットで実施された第3戦から約1ヶ月のインターバルを経て、SUPER GT シリーズ唯一の海外戦となるタイラウンドがチャン・インターナショナル・サーキットで開催された。決勝レース日の6月30日（日）は、曇り空に覆われているものの気温はレースウィークでもっとも上昇し、チームもドライバーにとっても厳しいレースとなることが予想された。



昨年の同大会では、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 が初表彰台を獲得したゲンの良いコースでもある。前日の29日（土）に行なわれた予選は、Q1を担当した宮田莉朋選手が7番手で突破。予選Q2を担当した吉本大樹選手はミスなくアタックしたが、ライバル勢のタイムアップには届かず12位となった。決勝レースは12番手からのスタートとなるが、昨年は16番手から表彰台に登ったので、今戦も表彰台へ向けて戦うこととなった。

30日の走り始めは12時55分から開始されたサーキットサファリで、20分間の走行時間が設けられていた。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3には吉本選手が乗り込み、コースコンディションやマシンのセットアップを確認する。2回のピットストップではセットの小変更を施し10周を走行。決勝レースを見据えた準備を行なった。

13時25分からは決勝レース前のウォームアップ走行が、こちらも20分間で実施。サーキットサファリに続いて吉本選手がSYNTIUM LMcorsa RC F GT3のステアリングを握って2周すると、宮田選手にドライバーチェンジ。

Final Day

計測4周目に1分34秒500のベストタイムをマークして、決勝レース前の最後の走行は8番手のタイムで終えた。ウォームアップ走行後にはすぐにスタート進行が始まり、予定通りの15時にフォーメーションラップが実施され、300kmの決勝レースの幕が開けた。

スタートドライバーを務めた吉本選手は、オープニングラップで1つポジションを落としたも



の9周目まで13番手をキープしてレース序盤を展開する。予選から想像したようなパフォーマンスを発揮できず苦勞していたが、決勝レースでも同じ状態となりラップタイムを上げられない。10周目に1台、15周目にも1台にパスされて15番手まで順位を落としてしまう。レースの1/3が終了した20周目あたりから徐々にピットインを行なうマシンが出てくる。ペースが上がらず我慢のレー

スを強いられた吉本選手は24周目にピットに戻り、給油とタイヤ交換を行なうとともに宮田選手にドライバーチェンジ。

22番手でコースに復帰した宮田選手は、チェッカーまでのロングスティントを担当することになった。タイヤを磨りつつも30周目にベストタイムとなる1分34秒822をマークして、18番手まで順位を復帰させる。さらに追い上げを図ろうとした32周目に突如マシンにトラブルが襲いかかった。宮田選手はリアのタイヤに違和感を覚え、スローパンクチャー（タイヤの異常）の状態だとチームに無線を入れる。すぐにピットではタイヤ交換の準備を行ない、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3を迎え入れた。リアタイヤを交換してコースに復帰するが、21番手で周回遅れとなってしまう。その後、GT500クラスのマシンがクラッシュしたために35周目から39周目までセーフティカーが導入される。リスタート後も宮田選手は諦めることなくプッシュを続け、45周目には20番手、50周目には19番手までポジションアップ。終盤の10周は毎周のようにパッシングを見せて、61周目に15位でフィニッシュした。



SYNTIUM LMcorsa RC F GT3と相性の良いとされたコースだったが、今シーズン初のノーポイントの終わってしまった。全体的にパフォーマンスも不足していて、チームとして原因究明にあたり、次戦に向けて万全の準備を行なっていく。

Team Comment



Director :飯田 章

期待していたタイラウンドだったのですが、今戦はパフォーマンスも流れも良いところがなかったです。第2スティントの走行中のピットインはタイヤトラブルだったのですが、原因が分かっていないので検証しなければいけません。もし、トラブルがなければトップ10フィニッシュも可能ただけに、もったいないレースでした。上位で戦うためには現状のパフォーマンスでは厳しいので、次戦に向けて抜本的な対策を行なう必要があります。次の富士スピードウェイは距離も長くボーナスポイントもあるので、好成績を残したいです。



Driver :吉本 大樹

全体的にグリップ不足だったためにブレーキングにも影響しポジションを守ることができませんでした。勝負権もなく、低い次元の戦いとなってしまいました。戦略の幅を持たせたのですが、想像以上にペースが悪かったので序盤にピットに入りタイヤとドライバー交換をすることになりました。このレベルの戦いを行なっているのは本来の姿ではないので、次戦に向けては今までとは異なった挑戦をする必要があります。チームとともに方向性を検討して、準備を進めていきます。



Driver :宮田 莉朋

昨年のタイラウンドは私が走った SUPER GT のベストレースだったので期待していましたが、残念な結果になってしまいました。緊急ピットインのときは、前兆がなくリアタイヤから振動が発生しました。おそらくスローパンクチャー（タイヤの異常）だと感じ、すぐにピットに戻ってタイヤを交換しました。もし、タイヤを交換していなかったとしても上位には入れませんでしたし、悔しさの残るレースでした。次戦に向けての収穫も少なく歯がゆい想いですが、立ち止まっていられないのでチーム一丸となって後半戦を戦っていきたいです。

